

年 頭 所 感

新春のご挨拶

大 井 利 夫

社団法人日本病院会 副会長
上都賀総合病院 名誉院長
診療情報管理士教育委員会 委員長
日本診療録管理学会 理事長

新年、明けましておめでとうございます。

亥の年、2007年が、診療情報管理士および受講生の皆様にとって良い年でありますよう、心よりお祈り申し上げます。

昨年も、診療情報管理士の皆様に関係する大きな出来事が幾つか続いた年でした。通信教育方法を単位制に変更して2年目、学年制と錯綜する中で、比較的順調に推移してきたと思います。これも、事務局や小委員会の方々、それに講師の先生方をはじめ多くの皆様のお力添えによるものであり、更に受講生のご理解とご協力があったからと深く感謝しております。

お蔭様で、昨年11月の認定者1,774名を加えて、診療情報管理士・診療録管理士は13,706名になりました。昨年同期に比し2,780名増加したことになります。これも診療情報管理に対する医療界や社会の関心が高まり、診療情報管理士に対する期待が高まってきている証拠と言えましょう。WHOが定めたICDに関するビジネス・プランの副題に「分類は保健情報の基本要素」とありますが、診療情報を正しくコーディングして診療の質や経営改善に資することは、診療情報管理士に求められている大きな期待でもあり、そのことが広く社会に認知されてきたのかも知れません。

そうした社会的要請に呼応して、わが国では昨年通称ICD専門委員会が設立しました。各医学会からと日本診療録管理学会から選ばれた委員により、ICDに関する諸問題を、改訂を視野に入れて科学的に検討していくことになります。また、国際的には日本病院会によるWHOへの支援が本格的に開始され、チュニジアでのWHO-FIC会議では、各委員会への参加・発表などに加えて、アジア・パシフィック会議が発足するなど日本国として大きな成果をあげることが出来ました。本年の4月には日本で第1回リビジョン・ステアリング・グループ会議が開かれ、9月には日本診療録管理学会の前に武田学会長のご好意により京都で第2回アジア・パシフィック会議が開催される予定です。

また、昨年12月には診療情報管理士の関係する3団体が統合し、本年4月から新たに「診療情報管理士会」として発足することになりました。これにより専門の職能団体として大きく飛躍することが予感されます。更に、本年4月から始まる都道府県による全医療機関の医療情報提供は、診療情報を管理活用する診療情報管理士の業務に更なる期待と充実を求めてくるであります。社会の追い風を感じます。国内でも、そして国際的にも、大きく羽ばたくチャンスです。それだけ責任も大きくなりますが、やりがいのある仕事が増えるとも考えられます。年頭に当たり新春をお祝いするとともに、眼高手低、希望を高く持ち、互いに切磋琢磨しながら診療情報の質的向上のために、努力していきたくと願わずにはいられません。